情報を結び付けて思考し，新たな視点から解釈する力の育成
―文学的文章教材と複数の資料を関連付けた読解を通して―

福島県立葵高等学校　教諭　村松　こずえ

1　研究の趣旨

次期高等学校学習指導要領解説の改訂の経緯では，これからの学校教育に求められていることとして，「様々な情報を見極め，知識の概念的な理解を実現し，情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと」が示されている。これを受けて，国語科の新設科目「文学国語」では，社会的・文化的背景が作品に与えている影響を考えて解釈を深めることや，作品と資料を関連付けることで，未知であったことや考察が不十分であったことに気付き，探究するための新たな視点を獲得して考察を深めることの重要性が述べられている。

これまでの自分の授業では，教師から示される正解を待つ生徒の姿に課題を感じていた。情報を結び付けることで，本文の解釈が変容したり深まったりする面白さを生徒が実感できる授業になっていなかったことが原因と考えられる。そこで，本研究では，生徒が自分で資料の中の情報と本文を結び付けて，新たな視点から深く考察する授業を構築したいと考えた。

2　研究の概要

(1)【手立て１】考える必要性や見通しをもたせる工夫

生徒の初読時の疑問や感想を基に「中心課題」と「問い」（**図1**）を設定する。「中心課題」に対する自分の考えを単元の最初に書き，その後，資料を活用して複数の「問い」に答える学習を行う。そして単元の最後に，再び同じ「中心課題」に対する考えを書くことで，考えの変容や深まりを実感させる。また，複数の「問い」が「中心課題」を解決する際の複数の視点となることを意識させる。

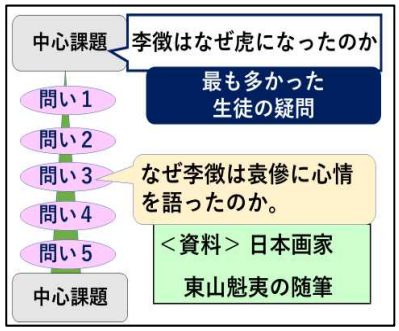

図１　「中心課題」と「問い」

(2)【手立て２】情報を結び付ける段階的な学習

段階的な学習（**図2**）によって，情報の結び付け方の違いを理解させる。

段階１では，時代背景等の基本的な情報を得ることで，作品の解釈が変容したり深まったりする学習を行う。ここでの情報は知識に近いものとする。

段階２では，本文と一見関わりのない資料を活用し，本文と資料に共通する「概念」が本文を解釈する際の新たな視点となることを実感させる。例えば，小説（本文）と，別の筆者による随筆（資料）を結び付けることが想定される。

段階３では，生徒が自分たちで探した情報（資料）を活用して，本文の解釈を深める。その際，段階１と段階２の方法を意識させる。

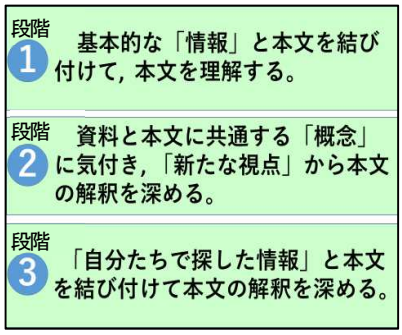

図２　段階的な学習の内容

(3)【手立て３】思考の深まりをもたらす対話的活動

思考過程の可視化や考えの理由付けを検討することで，自分の考えを客観的に捉えさせる。同じ資料から異なる視点が生じることや，複数の視点を活用することで解釈が深まることに気付かせる。

3　成果と今後の課題

(1) 研究の成果

○　資料と本文に共通する概念を言語化すること（概念化）によって，本文とは直接関わりがないような資料からも新たな視点を獲得し，文学的文章の解釈を深めている生徒が増加した。

○　情報を結び付ける学習を段階１と段階２に分けることで，情報の結び付け方の違いが明確になり，特に，これまであまり行われてこなかった「段階２」に対する理解を深めることができた。

(2) 今後の課題

○　概念化については，具体と抽象の関係を理解させる必要があるため，評論の学習と関連させて指導する。

○　一つの単元の中で解決されない「問い」に対しても生徒が探究していけるようにする。例えば，評論と随筆を結び付けることで生じた「問い」を，古典と現代文を結び付けて解決することも想定していく。